ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

シートNO.

ボーリング名	B-1(NO.45,R4.4)	調査位置						北　緯	36 ° 35 ' 16.0000 "
発注機関	栃木県鹿沼土木事務所			調査期間	2009-07-21 ～ 2009-07-23			東　経	139 ° 34 ' 02.0000 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	319.45 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 45.00 °	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘進長	9.05 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0-10	10-20	20-30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 0 10 20 30 40 50	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
1					崩積土 (Dt)	黒褐～暗褐			全体に礫混り粘性土主体の崩積土 0～0.55mは砂、礫主体ででルーズ 0.55～1.50mは礫混り有機質土主体 1.50～2.00mは礫混りローム主体 2.00～3.10mは礫混り有機質粘土主体														
2																								
3	316.35	3.10	3.10		風化頁岩 (Sh)	黒灰			亀裂多く風化も進みコアはほとんど礫状となる		07/21 3.10													07/21
4						黒灰			数mm単位の厚さで砂岩と互層をなす 風化が進みやや軟質化するもコアは10～20cmの棒状で採取される															
5						褐灰～黒灰			風化著しくコアは砂、礫状を呈し、一部粘土化している 5.5～6.0m間はやや褐色を帯びる															
6																								
7	311.75	4.60	7.70								07/22 7.00													07/22
8					頁岩 (Sh)	黒灰			岩質はやや新鮮な頁岩で、所々薄く砂岩と互層状を呈す 鉛直方向に近い割れ目が見られる 割れ目は褐変している コアは10～20cm程度の棒状で多く採取される		07/23 9.00													
9	310.40	1.35	9.05																					07/23